



エコで染める

柔軟に時代越える百年企業

## 株式会社 土田産業

1913年（大正2）、土田織物整理工場としてスタートした土田産業。着物や帯地の糊ぬき、湯のしなどの最終加工から始まり、織物・ニットの染色、インテリア関連資材の加工、医療・産業資材の開発と、時代の流れに柔軟に対応しながら加工技術の幅を広げ、2013年（平成25）には創業100年を迎えた。

土田産業では企業間ビジネスの他、自社製品やサービスを直接消費者に届けようとする試みも盛んで、2011年（平成23）からは、手染めによる淡く優しい「とけ色」をコンセプトにしたブランド「色創館（しきそうかん）」を展開。ストールを中心に、デザイン、製作、販売までを一貫して行っている。同時に洋服の染め替えサービス「Re:color（リ・カラー）」も開始した。紫外線や日焼け、洗濯などによって色落ちした洋服を一点から染め替えることができ、お気に入りや思い出の品をよみがえらせる。

2018年（平成30）には、生地加工過程で廃棄される布ミミを、編み物用の紐糸としてアップサイクルした「mimimo（ミミモ）」の販売を開始。これに合わせて、5月からは全国初となるニッティング・カフェ「カフェミモモ」をオープンした。コーヒーと一緒に編み物を楽しめる場を提供するとともに、ミミモを通じて指先を動かす機会を創り、教育や福祉分野での社会貢献も視野に入れている。

また、事務所をはじめとする社内スペースは、工場や倉庫の一部をスタイリッシュにリノベーションしており、エネルギー多消費産業である染色業において、資源を有効活用し環境に配慮する姿勢が事業活動の各所に表れている。

新しい試みに果敢にチャレンジする三代目の土田善一社長は、「『メイド・イン・キリユウ』を発信し、桐生に人が訪れるきっかけになってほしい」と話す。工場見学も受け入れており、「観られる」「買える」「作れる」と購買と体験が製造の現場と直結する同社は、桐生のものづくり文化の発信にも寄与している。上に向かって飛び立つ鳥と、柔軟に形を変える水を表した土田産業のロゴマークは、山紫水明のまち・桐生ともイメージが重なる。そんな桐生を象徴する老舗企業は、変化を恐れない創造性をもって地域とともに次の100年に挑む。

●場所／桐生市新宿2-2-21 ●電話／0277-45-2820 ●HP／<http://www.tsuchida-net.co.jp/>

色創館 ●営業時間／13：30～17：30 ●定休日／水・日曜日 ●HP／<http://shikisoukan.com/>

カフェミモ ●営業時間／13：30～17：30 ●定休日／水・日曜日